

平成27年度資源評価報告書(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成27年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 サワラ

学名 *Scomberomorus niphonius*

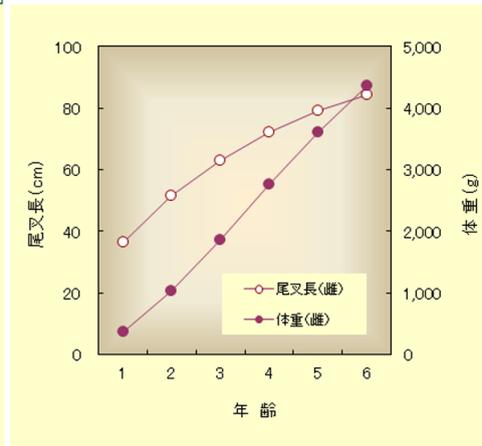
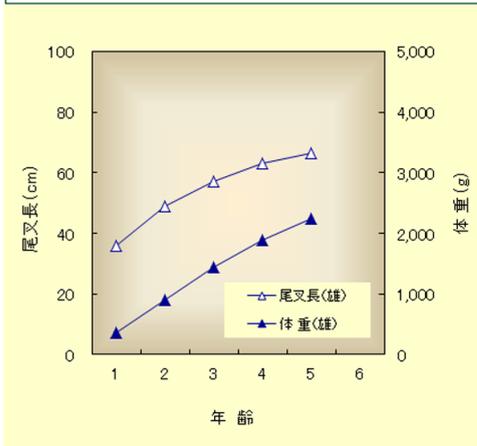
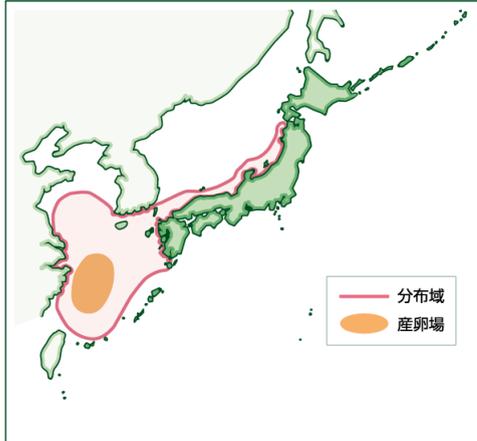
系群名 東シナ海系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命： 6歳程度
成熟開始年齢： 1歳(一部)、2歳(大部分)
産卵期・産卵場： 3～6月、東シナ海の中央部～中国沿岸
索餌期・索餌場： 夏～秋季、黄海・渤海、日本海など
食性： 生活史を通じ魚食性が強い
捕食者： 不明

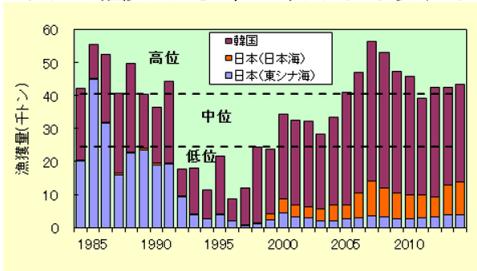


漁業の特徴

1990年代半ばまで、本系群の日本の漁獲量の大半は、東シナ海の大中小型まき網(まき網)によるものであった。しかし2000年以降、東シナ海のみき網による漁獲量の割合は低下し、日本海の定置網による漁獲量の割合が増加している。我が国の他、中国、韓国によっても漁獲されている。

漁獲の動向

我が国の漁獲量は1984～1991年には2万トン前後で推移していたが、1992年以降に急減して、1997年には822トンまで落ち込んだ。1998年以降は日本海における漁獲量が増加し、2014年は1.4万トンであった。2003年以降は日本海における漁獲が全体の60%以上を占めている。漁獲物の大半は1歳以下の若齢魚である。一方、韓国の漁獲量は、2007年に過去最高の4.2万トンに達し、その後減少するも2014年は3.0万トンであった。中国の漁獲量は、40万～50万トンで推移しているが、この中にはサワラ以外のサワラ類が含まれている可能性がある。

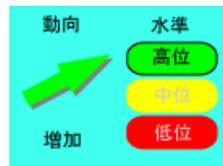
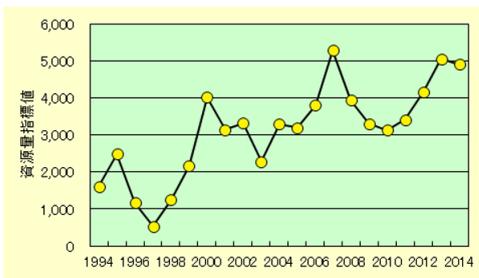


資源評価法

資源水準は日本と韓国の漁獲量から、動向は資源量指標値(日本の漁獲量、東シナ海で操業するまき網のCPUE(漁獲量/網数)、および韓国の漁獲量の相乗平均値)から判断した。

資源状態

資源水準は、過去31年間(1984～2014年)における日本と韓国の合計漁獲量の最小値と最大値の間を三等分した基準値に基づいて、高位と判断した。動向は、最近5年間(2010～2014年)における資源量指標値の推移から、増加と判断した。



管理方策

資源水準が高位、動向が増加であることから、資源状態に合わせて漁獲することを管理目標として、2016年ABCを算出した。

管理基準	Limit/Target	F値	漁獲割合 (%)	2016年ABC (百トン)
1.0・C2014・1.08	Limit	-	-	150
	Target	-	-	120

- Limitは、管理基準の下で許容される最大レベルの漁獲量。Targetは、資源変動の可能性やデータ誤差に起因する評価の不確実性を考慮し、管理基準の下でより安定的な資源の増大または維持が期待される漁獲量
- ABC算定規則2-1)により、 $ABC_{limit} = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ 、 $ABC_{target} = ABC_{limit} \cdot \alpha$ で計算した
- δ_1 には1.0(高位水準における推奨値)、 α には標準値0.8を用いた
- γ_1 は、 $\gamma_1 = 1 + k(b/I)$ で計算し、 k は係数(標準値の1.0)、 b は資源量指標値の傾き、 I は平均値(直近3年間(2012~2014年))である
- ABCは日本漁業に対する値

資源評価のまとめ

- 資源水準は高位、動向は増加
- 日本の漁獲量、まき網のCPUEおよび韓国の漁獲量の相乗平均値を資源量指標値とした

管理方策のまとめ

- 資源状態に合わせて漁獲することを管理目標としてABCを算出した
- 東シナ海および日本海における資源状態の正確な把握や資源管理には、関係国間の協力が必要である

執筆者: 高橋素光・青沼佳方

資源評価は毎年更新されます。